

平成 25 年度 第 2 回 水工学委員会幹事会議事録

日 時：平成 25 年 10 月 4 日（金）12:00～13:00

場 所：土木学会講堂（東京都新宿区四谷一丁目外濠公園内）

出席者：道奥（委員長）、知花（編集幹事長）

委員：市川、井上、今村、大槻、風間、川越、河原、里深、清水（義）、杉原、渡辺（田中
仁委員代理）、戸田、中津川、馬場（武藤委員代理）、渡邊（康）、

委員兼幹事：浅沼、石平、大石、川池、木内、篠田、角、関根、竹林、田中（規）、田中（昌）、
富永、原田、藤田、横山

オブザーバー：松田、河村

《報告事項》

1. 水工学に関する夏期研修会

富永幹事から以下の実施報告があった。

8 月 26 日(月), 27 日(火)に, 名古屋工業大学で実施された. A コース 93 名, B コース 111 名の参加であり, 水工学委員会担当の A コースの参加者の方が少なかった. B コースに比べて, A コースでは研究所からの参加が少ないことが原因の一つと考えられる. また, 参加者から発表のパワーポイントのファイル提供の依頼があり, 海岸工学委員会は, 研修会終了後に希望者に配付した. 学生の参加費が高いため, 7000 円ぐらいに減額することを次年度以降に検討してはと提案. 会場費・講師旅費が安かったため, 決算は 60 万円程度の黒字であった.

2. 水シンポジウム高知

道奥委員長から以下の報告があった。

8 月 22 日, 23 日に高知で実施された. 河川部会及び徳島大学・武藤教授にご協力頂いた. 見学会は, 40 名の参加. 報告書は現在作成中であり, 10 月中に河川財団に提出予定.

3. 全国大会研究討論会

道奥委員長から, 山田前委員長をリーダーとして「水理・水文解析のための汎用プラットフォームの活用と国際展開」というタイトルで 9 月 4 日に日大生産工学部で実施されたとの報告があった.

4. 各部会, 小委員会の活動報告 (第 1 回水工学委員会以降の情報)

○水文部会

浅沼部会長より報告があった. 9 月 4 日に静岡大学・牛山先生に講演頂いた.

○基礎水理部会

富永前部会長より報告があった。12月2日に生態水理学をテーマにして基礎水理シンポジウムを実施する予定。11月13日～15日の予定で、iRIC講習会 in 関西を実施する予定。

○環境水理部会

角部会長より報告があった。9月6日に部会を実施した。次年度の研究集会は、岐阜の自然共生センターで実施する予定。次年度の長崎での水シンポを担当。11月15日～16日に樹林化ワークショップを東大で実施予定。環境水理学の教科書の作成も進んでおり、年度内の発刊を予定している。12月12日に流域圏シンポ（漂流・漂着ゴミ（流木を含む））を首都大秋葉原キャンパスで実施予定。

○流量観測技術高度化小委員会

藤田小委員会委員長より報告があった。7月に富山で勉強会を実施した。次回は国交省で勉強会を実施する可能性あり。

○水理実験指導書改定小委員会

藤田小委員会委員長より報告があった。8月29日に小委員会を開催した。指導書の原稿は一通り揃い、フォーマットの統一作業中。平成26年7月発刊予定。

○河川部会

松田部会長より報告があった。6月6日と7日に、東京大学で河川技術に関するシンポジウムを実施した。本幹事会後の13時から土木学会B会議室で部会を開催する予定。

5. 水害対策小委員会

竹林小委員会幹事長より以下の報告があった。

7月に第1回小委員会を実施した。山形水害、山口・島根水害、秋田・岩手水害、京都・滋賀水害に対して、水工学委員会による調査団の結成のサポートを行った。小委員会のFacebookページへのアクセス数などについて紹介があった。また、水害調査がCPD対応となるとの報告があった。

6. 社会インフラ維持管理・更新検討TFについて

協議事項へ

7. 流域管理と地域計画の連携方策に関するワークショップについて
道奥委員長より、兵庫県の協力で12月16日に土木学会講堂で実施予定との報告があった。立川幹事長が担当。

8. その他

○土木学会英文論文集

関根幹事より以下の報告があった。土木学会論文集通常号及び特別号からの推薦論文を近日中に対象者にお知らせする。特別号の評価点数と英文論文集への推薦・非推薦判断の整合性が取れていないため、推薦論文の決定に支障をきたすことがある。推薦論文の決定方法は、執行部と議論して次回以降の幹事会で報告する。

≪協議事項≫

1. 平成25年度第58回水工学講演会の開催について（神戸大学）

大石幹事より、準備が順調に進んでいるとの報告があった。

2. 水工学に関する夏期研修会（2014・水工学委員会担当）について

杉原幹事より以下の提案があり、了承された。

次年度の夏期研修会は、九州工業大学で実施する。Aコースのテーマは決定していないが、水害や河川防災技術をテーマにする方向で検討を行う。なお、Bコースもテーマは決定していないが、観測の技術などのテーマとなる可能性がある。

3. 水シンポジウム長崎について

道奥委員長から以下の報告・提案があり、了承された。

9月30日に道奥委員長が九州地整を訪問した。担当部会は、環境水理部会であり、角幹事が既に長崎の関係者と連絡を取り始めている。12月16日に実行委員会を実施する予定。

角幹事から以下の提案があり、了承された。

治水と利水・環境の二つの分科会があり、環境水理部会として利水・環境の分科会を担当することを想定してテーマを検討する。テーマとしては、離島の水問題や水道問題などを考えている。

4. その他

○社会インフラ維持管理・更新検討TFについて

道奥委員長から以下の提案があり、了承された。

2012年12月の笹子トンネル事故がきっかけで検討が開始された。維持管理の知識体系をつくることに水工学委員会としてコミットする予定。トンネルは年々劣化する

が、河川は河床変動等の結果、状態は良くなったり悪くなったりするため、トンネルとは維持管理の考え方が基本的に異なる。メンテナンス工学テキスト作成に、本検討に最も関係が深い河川部会から1名の委員を出す。

角幹事から、樋門・ゲート・ダムなどは水系だけではなく、機械系やコンクリート系の知見に基づいたメンテナンスが必要との提案があり、松田河川部会部会長から、それらも考慮した枠組みでの検討を考えるとの回答があった。

○水理公式集について

道奥委員長から以下の報告・提案があり、了承された。

出版委員会への企画書の提出締め切りが9月30日であった。そのため、企画書提出前に編集体勢を作るとともに目次を作成する予定であったが、9月30日には間に合わなかった。しかし、辻本小委員会委員長の了解を得て、とりあえずは企画書を提出した。

○河川・砂防技術基準について

道奥委員長から以下の提案があり、了承された。

国交省と水工学委員会が協力して改訂する。担当部会は、基礎水理部会。12月2日に第一回目の会合を実施し、3月の水工学講演会の時にワーキンググループを発足する予定。また、環境系のワーキンググループも設立することとなっている。環境系のワーキングは、環境水理部会と応用生態工学会が担当する。応用生態工学会と連絡を取り、重複が無いように担当者を決定する。

○土木学会論文集の投稿論文の内容の水工学講演会での発表について

知花論文編集小委員会幹事長から以下の提案があり、了承された。

全投稿論文の中から、発表を希望する論文に対して水工学講演会での発表の機会を与える。次回の水工学講演会（神戸）は間に合わないので、次年度から実施する予定。発表は、実質的に義務とならないようにする。

以上